

ABCニュース

「クラスのほとんど初めて見る顔」大阪府立高校で卒業式 マスクで過ごした高校生活3年間 最後の晴れ舞台に“着用の有無”は自主判断で

ABCニュース / 2023年2月28日 17時27分



高校生活最後の晴れ舞台。本来に近い形で行えるのは3年ぶりです。緊張した面持ちで入場する卒業生たち。多くの生徒がマスクをしていませんでしたが、普段マスク生活に慣れているからか、マスク着用している子どもたちも ちらほら。

(大阪府立清水谷高校・日笠賢校長)「皆さんがにっこり笑ってくれた。改めて笑顔进行全面で見るのはいいなあと思いました」。

清水谷高校では大阪府の方針に従い、校歌斉唱など複数で声を出す場面を除き、“マスクなし”での卒業式を行うことにしました。

(卒業生代表)「いつ、憧れ夢見た学校生活が始まるのかと不安でいっぱいでした」「制限がかかる中で私たちは、毎日が最大限楽しいものとなるように考えて過ごしました」。

思い返せば、この3年間でマスクありの生活が日常となりました。学校の登下校や授業中はもちろん、給食の時間もマスクを着用。徐々に緩和され、音楽や体育の授業ではマスクを外すことが可能な場面も増えてきましたが、そのほかはマスク着用が当たり前となっていました。

そんな中、文部科学省は新型コロナの5類移行を前に4月から学校でマスクの着用を求めないことを決めました。また卒業式については、前倒しで適用することにしたのです。

(岸田総理大臣)「ぜひ卒業式においては、お互いの笑顔を見ながら参加してほしい」。

3年ぶりのマスク無しでの卒業式前日。清水谷高校ではリハーサルが行われていました。(学年主任)「みんな分かっているとおり、入学式ができませんでした。きちんとした式典として、みんなを送り出す大切な式典を無事にできるように、今から予行に入りたいとおもいます」。

この日、生徒らはマスクをしていましたが、本番は基本的に着用は求められません。ただ、場面によって異なるため、入念に動きを確認します。また、座席の配置について工夫も。

(学年主任)「(卒業生は)マスクを着けたうえで歌いますが、間隔を空けて歌えるという形で座席を作らせてもらった」。

「(保護者は)去年まで卒業式は、卒業生1名に対して保護者1名という形にしていた、今年は1人ではなくて2人、あるいは3人で来たいという方にも入っていただくように、後ろの席は多めに」。

「保護者にとったら自分の子どもたちが成長した姿は、一番見たいところ。それが卒業式という式典でできて、見ていただけるのは本当にうれしい」。

迎えた28日、約500人の保護者が卒業生たちの新たな門出を祝いました。ただ、生徒らにとってはマスク着用を巡り、うれしさと不安が入り混じる中での旅立ちの日となりました。

(マスクを着けずに参加した卒業生)「クラスのほとんどは初めて見る顔で、とても新鮮でした。マスクしている写真より、みんなで笑っている、笑顔の写真が撮る事ができて良かったと思う」。

(マスクを着けて参加した卒業生)「だいたいみんな外せてうれしいと思うが、私は外すのに抵抗があって、ずっと着けていた。今さら外して最後に印象変わるの嫌かなと思って」。

一方、保護者からは…。

(卒業式に出席した保護者)「(マスクなしの卒業式は)本当にありがたいなと思いました。入学式もないままで、入学証書1枚で始まった高校生活だったので、本当にきょうは、体育館に入場したときに、もうその時点で号泣しようかなと思ったくらいでした」。

(別の保護者)「戸惑われた家庭もあったと思う。強制ではなかったということで、(マスクを)外せない子は、したままということでよかったのではないかな」。